

## 7. 漂流・漂着ゴミ削減方策に資するための調査の課題

本事業では、クリーンアップ調査はじめ様々な調査を実施した。それぞれの調査には役割があり、調査を実施することによって、当初期待された成果を達成できたものもあれば、そうでないものもある。何が分かって何が分からなかったのかについて整理し、分からなかったところが今後の課題であり、新たな調査を計画する上で貴重な事前情報となる。したがって、課題をまとめることが本事業のひとつの成果でもある。

そこで、それぞれの調査について、得られた結果および課題をまとめた。

### 7.1 調査の役割

漂流・漂着ゴミの削減方策に資するため検討すべき項目として「現状把握」、「発生抑制」、「除去」、「漂着防止」があり、本事業ではそれぞれの検討項目に対応する調査を実施した。実施した各調査と検討項目との関係を図 7.1-1 に示す。

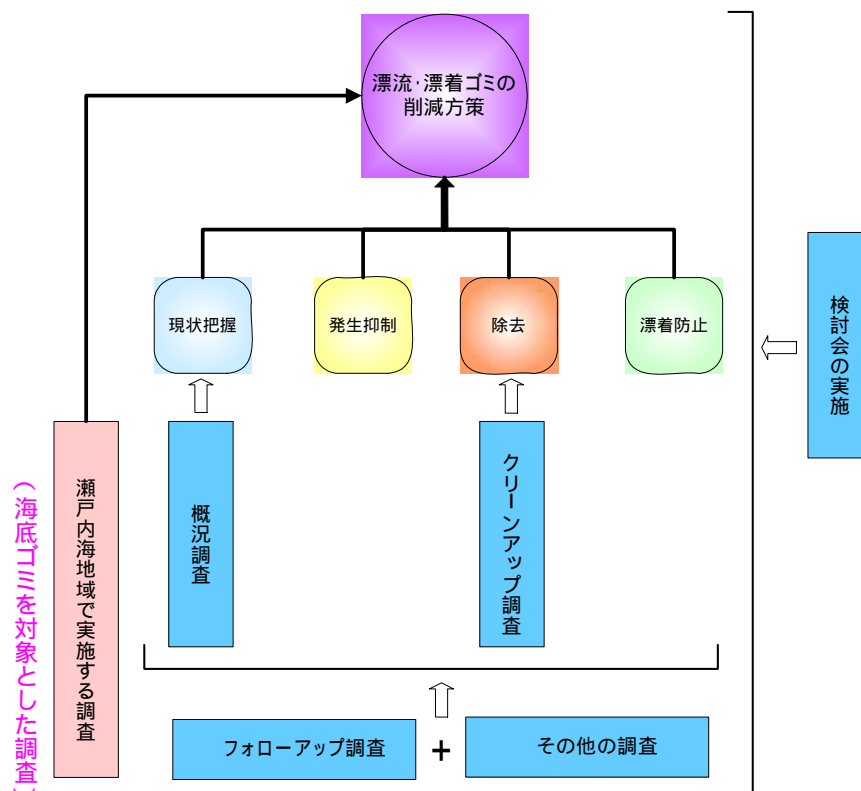


図 7.1-1 漂流・漂着ゴミ削減方策に資するための検討課題と各調査との関連

次に、各調査に期待された成果とその成果が漂流・漂着ゴミ削減方策とどのように関連するのかについてまとめたものを図 7.1-2 に示す。

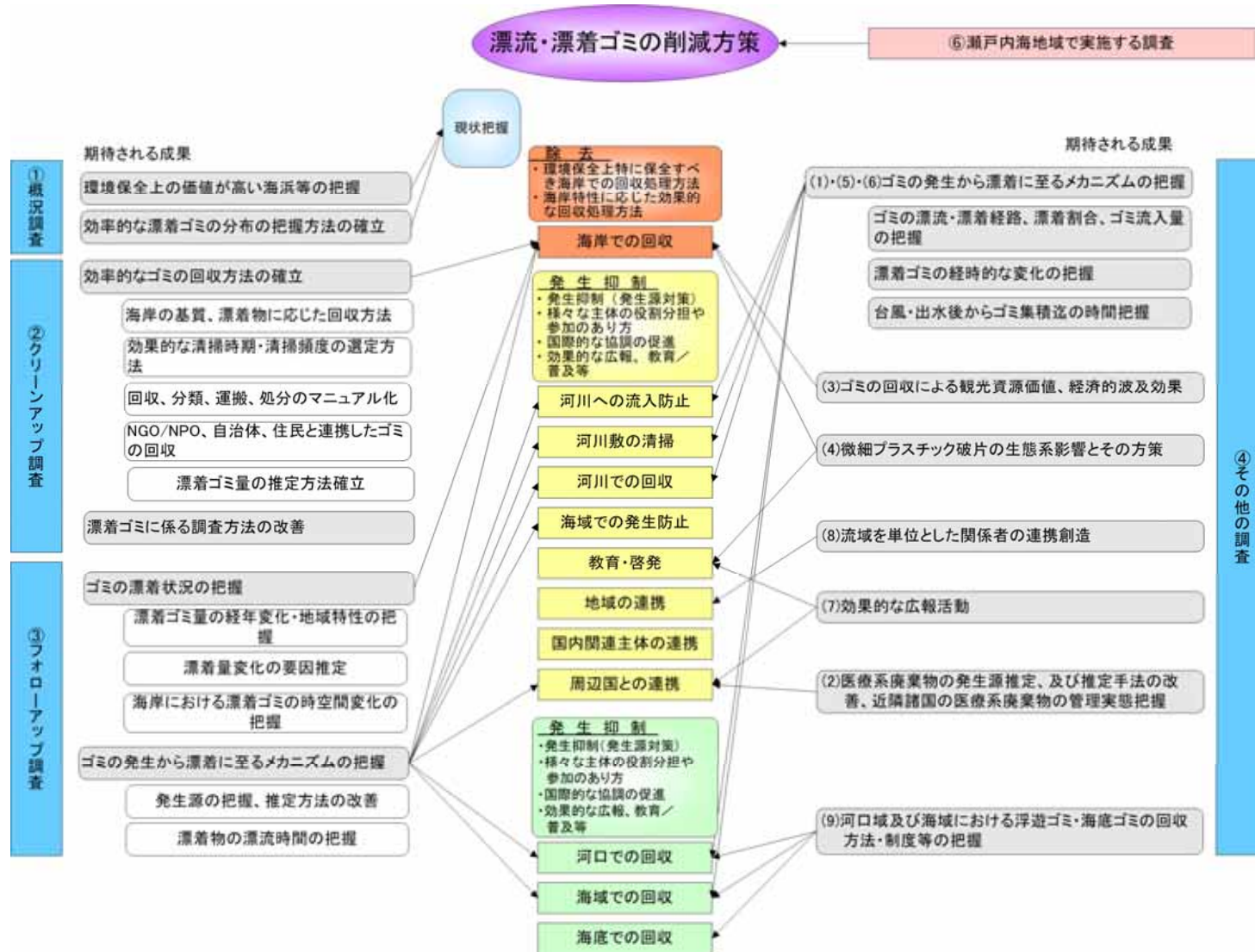


図 7.1-2 各調査で期待された成果と漂流・漂着ゴミ削減方策との関連性

## 7.2 成果と課題

熊本県天草地域では図 7.1-2 に示した調査のうち、概況調査（文献及びヒヤリング調査、航空機調査）、クリーンアップ調査（共通調査、独自調査）、フォローアップ調査、その他調査として定点観測調査を実施した。同図のうち、本地域で実施していない事項の多くは、図の右側に位置する「その他の調査」に関わる項目であり、これらについての検討は他のモデル海岸あるいは「総括検討会」の報告書に反映しており、本報告書では記載対象としていない。

それぞれの調査で得られた成果と今後の課題についてまとめたものを表 7.2-1 に示す。

今後、漂流・漂着ゴミの削減方策に資するための調査を実施する場合には、課題点に対してどのような対策をとるのかを検討し、より効果的な調査を立案する必要がある。

表 7.2-1 熊本県天草地域で実施した調査の成果と課題

	調査項目	得られた成果	今後の課題
概況調査	文献及びヒヤリング調査	調査地域周辺の地理的状況、清掃活動、回収事業の実施状況を把握。	漂着のメカニズムに係る海底地形、流況、潮流に関する情報の不足。
	航空機調査	調査範囲を含む熊本県の全海岸線のある時間断面の漂着ゴミの分布状況を把握。	1時期（9月20～22日）の情報のみであり、他の時期の状況については不明。
クリーンアップ調査	共通調査	調査期間における調査時期別・地点別の漂着ゴミの定量採取、ゴミの分類を行い、時期別・地点別の漂着ゴミの量と質を把握。	1年間のみ情報。 【調査枠の設置方法】 八代海のような比較的静穏で干満の差の大きな海岸では、海岸にゴミが漂着せず、汀線付近を漂う状態があり調査枠にゴミが入らない場合もある。 【発生源の把握】 発生源、発生場所を把握するためのライター、ペットボトル等が調査枠だけでは十分に取得できなかった。
	独自調査	調査範囲のゴミの回収、処理を実施。地域の実情の即した効率的・効果的な回収、運搬、処分方法を提案。回収、運搬、処分に要する費用を計算。	回収、運搬、処分に関して地域の中で全ての可能性を検証したわけではない。例えば流木の有効利用など。
フォローアップ調査	フォローアップ調査	漂着ゴミと気象・海象との関連性を検討し、いつごろ、どのような場所にどんなゴミが漂着するのかを把握。	1年間のみ情報。 河川から流入し、漂着にいたる物理的環境条件の検討が不十分。 調査期間のある場所での定性的な検討が多く、他の時期や場所に適用できるような普遍性に欠けている。 他の調査結果の利用や比較が不十分。
その他の調査	定点観測調査	ある場所の調査期間の毎週のゴミの漂着状況を把握。	異なる環境条件の場所を複数設定して観測を実施していない。